

AI

一般的に学問は師についたほうが、独学するよりも進歩が早いものです。独学では、本を読んで疑問に思っても尋ねることができません。本は何度読んでも同じことを言うだけです。師についていると師に聞くことができます。聞いてもよくわからなければ、さらに聞くことができます。師は弟子のレベルに合わせてわかるように言ってくれます。それで師についたほうが独学より進歩が早いのです。しかしこれを大きく変えるものが出現しました。AI(*artificial intelligence*)です。

AIの出現により、独学する人でも、わからなければAIに聞くことができるようになりました。その回答がわからなければ、さらに聞くこともできます。それで独学者の進歩がAI出現以前よりずっと早くなっています。AIの出現は特に独学者に大きなメリットをもたらしたと言うことができます。

師はある特定の分野の専門家です。その専門分野に関しては深い知識があります。しかしその専門分野以外は素人です。師につけば、その特定の分野での進歩は早いでしょうが、その専門分野以外の進歩はあまり望めません。一方AIは広い分野にわたり、広い知識を持っています。どんな分野でも人間の素人よりはよい回答をします。広い分野で上達したければ、師につくよりもむしろAIに聞いたほうがよいとも言えます。

しかしAIには限界と危険性もあります。特定の専門分野でもAIはかなりの知識を持ちますが、人間の専門家には及びません。特定の専門分野で上達したければ、師についたほうがAIに聞くよりも優位なのです。

従来のGoogle検索は単語で検索して表示されるものをいろいろ読み知識を得ていました。最近のGoogleでは、単語で検索しても、Google AIに該当するものがあれば、Google AIの回答が最初に表示されます。Google AIの回答だけを読み、他の表示を読まないなら、それが唯一の回答のように思ってしまいます。またいろんな見解を読んで考えることをしないから、人間の思考力が落ちます。

AIをつくるには莫大な費用がかかります。だから世界にあるAIの数は限られます。ネットに投稿する膨大な人の数と比べると、AIの数ははるかに少ないです。数の少ないAIのみを読み人々が動くようになると、一般的な見解のみが支持され、少数意見が無視されることが起こります。人間の進歩は少数意見によってなされて来たことを考えるとこれは大きな問題です。

AIの数が限られているため、資金のある者が自分たちに都合のよい回答をするように、AIをプログラムする可能性もあります。そのため資金を持つ者の大衆誘導が容易になります。

AIは確かに革命的な発明ですが、大きな危険性もあることを認識すべきです。